



ふれあいの輪、さらに広がります

ほのか

HONOKA

1

2024
No.652

JAあまるめ



賀正

特集

年男・年女 新年の抱負

阿部美和さん(千河原)がフラワー・オブ・ザ・イヤーOTA2023特別賞を受賞!

<http://www.ja-amarume.or.jp>

JAあまるめ 検索

JAあまるめ

アボカド

希少な国産にも注目! 栄養たっぷり「森のバター」

イラスト: 小林純美子

アボカドのプロフィール

【分類】ウズノキ科ワニナシ属
【原産地】中南米地方
【おいしい・時期(旬)】周年3月~2月ごろ(国産)
【主な栄養成分】ビタミンE・C・K・B群、カリウム、葉酸、食物繊維、不飽和脂肪酸など

保存方法

未熟な場合
15~20度程度の風通しが良い場所で熟成
15~20度
熟している場合
1つずつラップに包み冷蔵庫の野菜室へ

カットした場合
ラップで包み、ポリ袋か保存袋に入れ野菜室へ。レモン汁や酢、オリーブ油を塗ると変色しにくい。すぐに使わない場合は冷凍庫に入れ、自然解凍して使う

注意
冷やし過ぎると他温障害で熟さない……夏場など高温下では傷みやすい

果肉のみ
レモン汁などを詰め保存袋に入れ、軽くつぶして空気を抜き冷凍庫へ自然解凍してディップやソースに

選び方

へたが果実から浮き離れに取れる
皮が柔らかく手になじむ
深緑色から黒色
過熟かも……柔らか過ぎてへたごとの皮全体がボロボロと落ちている
未熟かも……鮮やかな緑色の堅く弾力を感じない。へたがしっかりと付いている
すぐ食べる
数日後に食べる

アボカドのいろいろ

国産に注目
和歌山県、愛知県、鹿児島県など

ハズ
日本で出回る主流品種。果皮がザラザラで、ねっとりとした濃厚な味わい。しょうゆやマヨネーズ、オリーブ油などと相性◎

パーゴン
クリーミーでこくと甘みがある。ディップやソースに

リード
品種改良により寒さに強い。国内でも少量ながら栽培

フェレテ
歯ごたえと甘みがある。カットしてサラダなどに

ピンカートン
果皮は少し厚みがあり、ザラザラしている。濃厚な味わい

食べ方・楽しみ方

切り方、皮のむき方
縦半分、ナイフを中央に刺し、逆方向に回して半分ずつに割る
種は包丁の下部分を軽く押し、ていねいに簡単に出せる
皮は引っ張るようにむく

生のまま
サラダやお惣菜、サンドイッチや寿司に
生クリームやマヨネーズと合わせディップやソース、ムースに
プリンやケーキに

加熱して
オムレツ、いため物やソテーに
未熟なものは天ぷらやフライに

Instagram X (旧Twitter) Facebook

JAあまるめ 広報ほのか

- 編集と発行/余目町農業協同組合
- 編集責任者/渡会 武司
- 印刷/JA印刷山形
- 令和6年1月

JAあまるめホームページ
<http://www.ja-amarume.or.jp>

JAあまるめ



JAあまるめ生活館 (Aコープあまるめ)



JAあまるめ 資料館



謹んで新春のお慶びを申し上げます



代表理事組合長

佐藤 一彦

新年あけましておめでとうございます。組合員並びに関係各位におかれましては輝かしい新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。組合員並びに関係各位におかれましては輝かしい新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。組合員並びに関係各位におかれましては輝かしい新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。組合員並びに関係各位におかれましては輝かしい新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

水稲・大豆・園芸特産物の栽培管理には、農家の皆様は苦勞された事と思われま。特に梅雨明けからの少雨と夜間の気温が下がらなかった事は、私達の体力の消耗と生産物の生育に大きな影響を及ぼしました。水稲の一等米比率は過去経験した事の無い低下と減収、枝豆・長ネギは高温による生育の減退による収量低下になりました。お米どころ庄内において、稲や大豆が水枯れをする圃場を私は初めて見ました。まさに災害と言わざるを得ない気候でした。地球温暖化と言われ、ゆつくりと影響を及ぼすであろうと考えていた私

に、変化と影響は突発的に現れる戒めの年だった気がします。まずは、昨年のような気象が再度訪れる想定に立ち、対策を進めてまいります。

また、昨年はコロナ感染症が落ち着き、社会活動が活発に動き始めた年でもありましたが、コロナの後遺症と思われる事もありました。非対面・非集合行事に慣れたことによる組合員との距離は、以前より遠く感じられる時があります。それらに対処すべく役職員の訪問による活動(※TAC)を開始しました。組合員のご自宅に伺い、何気ない会話から日頃の思いの一端を伺い、今後の事業や活動に活かす、聞くことから始まるコミュニケーションを開始しました。多くの会話の中にヒントがあり、今後も継続してまいります。

今年はいよいよ農業の憲法「食料・農業・農村基本法」が見直されます。将来の農業の指針となる法律です。食料安全保障の観点での国産作物への転換、持続可能な農業経営体の確立、農村人口が減少する中で、農業を下支えする機能の維持等、課題が山積してきますが、改正施行を受け、解決の糸口を見出していきます。

また、農産物販売では現在も資材・肥料・燃油高騰によるコスト高を価格転嫁できるまでには至っておらず、早い段階での仕組みの構築を農政運動として、組合員と共に実現を目指してまいります。今年「甲辰(きのえたつ)」春の日差しが平等に注ぎ、大きな成長を促す年と言われており、農作物が順調に生育し、実り多い年でありますよう願ってやみません。

今後とも、組合員の負託に応え農業・地域に無くてはならない存在と役割を、役職員が一体となり目指してまいります。

本年も組合員、関係各位におかれまして幸多き一年になりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。

※(TAC)・・・「地域農業の担い手に出向く担当者」地域農業をコーディネートする意味。



監事 高橋 恵



監事 奥山 賢一



代表監事 柿崎 寿一



理事企画管理部長 渡会 武司



理事信用共済部長 阿部 浩



理事 遠田 雅弘



理事 小野寺 姫



理事 中野 智



理事 渡會 正



理事 五十嵐 晃



副組合長 阿部 勝吉

新春号 表紙の紹介



今年頑張りたいこと

僕が6年生になって頑張りたいことは二つあります。
一つ目は、勉強です。僕は算数が苦手です。算数をたくさん勉強して、苦手を克服したいです。
二つ目は、バスケです。今年からはキャプテンになります。下級生を引っ張っていき、皆のお手本になるようなキャプテンになりたいと思います。僕は、身長が低いのでスピードやハンドリングを活かしたプレーができるように練習したいです。そしてチーム一丸となって、県大会に行けるように頑張りたいと思います。



6年生になったら

6年生になったら苦手なことを克服したいです。
まずは、漢字です。テストでは90点取れるのが、漢字では60点くらいしか取れないです。止め、はね、はらいなどを頑張りたいです。
体育では、鉄棒で足からかけ回りや、逆上がりなど難しいので頑張りたいです。他には持久走、シャトルランなど走るスポーツも頑張りたいです。
社会科もしっかりと教科書を見て、テストで忘れないようにしていきたいです。
6年生なので下級生をサポートしていきたいです。



今年頑張りたいこと

僕が今年頑張りたいことは二つあります。
一つ目は、友達と仲良くすることです。今年には修学旅行があるので、楽しい思い出にするために、今まで以上に友達と仲良くしていきたいです。
二つ目は、健康に過ごすことです。小学校最後の学年なので、休まないで最後の学校生活を楽しみたいと思います。



今年頑張りたいこと

僕の今年頑張りたいことは、小学校2年生から続けている柔道です。コロナでなかなか試合ができませんでした。練習を頑張ってきました。去年からだんだん試合が増えてきて、練習したことを実戦でできるようになりました。しかし、緊張してうまく動けず、悔しい思いをしたときもありました。今年はその気持ちを力にして、今まで以上に練習に集中して取り組みたいです。そして、試合で悔いのない結果を出せるように頑張りたいです。



新年を迎えて頑張りたいこと

僕が新年を迎えて頑張りたいことは、FC余目のキーパーとしてゴールを守り、攻めに繋げることにあります。そのためには、まず遠くにそして正確に、キーパーキックをする必要があります。そのためには練習量を増やして頑張りたいです。次に、大きな声で正確に指示を出し、ディフェンダーを正確なポジションにさせ、シュートを打たせないようにマークをさせることです。
そして、たくさんシュートを止めて、チームの皆を県大会に導きたいです。



今年頑張りたいこと

僕が今年頑張りたいことは三つあります。
一つ目は自由研究です。小学一年生の頃から、面白い研究に取り組みできました。今年の夏休みも自由研究に取り組み、集大成として頑張りたいです。
二つ目は健康に気を付けて、落ち着いた毎日を送ることです。小学校最後の年なので、休まず元気に過ごし、楽しい思い出を作りたいです。
三つ目は勉強です。特に国語を重点的に勉強したいです。そして、苦手を算数も頑張つて、良い一年にしたいと思います。



特集

2024 新春メッセージ



年男・年女
新年の抱負

洗練された栽培技術を次世代に残していくために



新春 園特部会・産直の会 座談会

昨年の災害級の高温少雨は、日本海側を中心に農作物へ多大な影響を及ぼしました。度重なる資材・肥料・燃油価格の高騰で、原料価格は高止まりにもかかわらず、販売する農作物には価格転嫁できていないのが日本農業の現状です。しかし、当農協の園芸特産物・産直の商品は先人達の技術力を受け継ぎながら、全国でもトップクラスの栽培技術を誇り、高品質な商品を生産しています。貴重な栽培技術や知恵を次世代に引き継ぐためにも、園特部会・産直の会は大事な組織です。

組合長 あけましておめでとうございませう。園特部会・産直の会の昨年の課題、様々な意見をお聞かせ願いたいと思います。今回の座談会を通して、今年も農協と共に頑張ろうという気持ちになれば幸いです。よろしくお祈りいたします。

Q..自己紹介

高梨 廿六木で農家レストランをやりながら、産直に自分で作った野菜を出荷しています。高梨美代子です。

工藤 長畑で水稲、園特をしています。工藤豊章です。園特は花がメインで、他には赤かぶや野菜を家族経営で出荷しています。今年で就農して約20年になりますが、まだまだ学ぶことが多いと感じています。

阿部 横島で水稲、園特をしています。阿部良明です。園特は枝豆、赤かぶを主に作付しています。青菜も小規模ではありますが、作付しています。今年で就農して8年目になりました。横島は7軒のうち4軒は枝豆を出荷しているの、地域と共に枝豆に携わっています。

森屋 廿六木で主に長ねぎ、軟白ねぎを作付しています。森屋慶一です。就農して6年目になりました。昨年から大豆の作付にも挑戦しています。

佐藤 館で家族経営で農家をしています。佐藤啓一です。父は花き、妻には産直向けの野菜をお願いしています。私は主に水稲、大豆、赤かぶを生産しています。現在は夏を体験して、今後安定的に産直コーナーに出荷するための対策はありますか？

高梨 昨年は夏に種をまいて、秋に出荷を予定していた白菜や大根が全然育ちませんでした。苗を購入したキヤベツ・カリフラワーも少雨の影響で、枯れてしまったところがありますが、今になってようやくキヤベツが出荷できる状態になっています。

北川 ハウスの天窓やサイドを開けて対応しましたが、昨年の猛暑には太刀打ちできませんでした。風が吹けばよかったです。期待していた風も吹いてきませんでした。稲刈り期間中は、防除作業がおろそかになってしまい虫が付いてしまいました。

組合長 早朝灌水ではなく夕方灌水を行っている人も多くいました。昨年の夏の暑さを考えると、部会で情報共有しながら灌水作業を中心に、対策を考えていければと思います。

組合長 園特部会から農作物を作るには大変な年だったとの話がありました。生活館の産直コーナーでは、同じく猛暑の影響により品数が不足する事象が発生しました。昨年度より、販売金額や販売数量が減少している

しています。Uターンで就農し、今年で17年目になります。

北川 榎木で水稲、軟白ねぎを作付しています。北川庄一です。就農して約10年になりました。他の園芸特産物にも興味はありますが、現在取り組んでいる作物の栽培技術を高めていこうと頑張っています。

Q..昨年の苦勞、近年の園特部会・産直の会の状況について教えてください。

工藤 昨年は経験したことのない猛暑が続き、ハウスの中で農作業をするのも大変でした。トルコギキョウは暑ければ早く花が付き、草丈が短くなってしまう品目です。他の産地に比べると管内は被害が少ないうえに、一昨年も品質が低下する傾向が見られました。トルコギキョウの後はストックを作付しています。9月上旬くらいから、低温になることで花芽が付き、11月に開花が始まる品目です。昨年は10月まで暑かった影響で、開花が遅れ、年内の出荷量が減少しました。花の産地である庄内町として、安定供給できなかったのが昨年の課題だと感じています。今後の対策

工藤 豊章さん(長畑)

森屋 ねぎは暑さで生育が止まる大変シビアな作物です。昨年の猛暑で生育がずっと止まってしまい、伸びない・太らない状況でした。少雨ではありましたが、雨が降る際は、ゲリラ豪雨のような強い雨で圃場に悪影響を及ぼしました。しかし、砂丘地です。

阿部 枝豆も高温の影響がありました。ここ数年は天候の影響からか、開花のタイミングにバラつきがあるように感じ、昨年はこれまで以上に揃わない状況でした。昨年は高温少雨のため、横島地区の生産者間でも灌水の必要性を検討し、私も先輩たちのアドバイスを受けながら、初めて枝豆の圃場に灌水をしました。結果的に、灌水を行わなかったら、品質の確保ができなかったと捉えています。収穫のタイミングも難しく、鞘割れが見られ、収量の減少にもつながりました。品種によっては鞘が黄色っぽくなっていた枝豆も見られたので、部会全体で情報共有しながら、適期収穫・出荷、または暑さ対策について話し合いたいと思います。



阿部 良明さん(横島)

としては、開花調整の研修を部会で開催できればと思っています。

北川 出荷された農産物が販売店に届き、消費者の方から喜んで購入してもらい、「美味しい」と声に出して評価していただくことが、農業を続ける糧になっています。

Q..園特の魅力教えてください。

佐藤 農業が一番楽しいのは収穫だと感じています。昨年、部会としては近年になく豊作の年でした。また、私は赤かぶを栽培した圃場に翌年は、水稲を作付していますが、肥料を抑えることができ、収量が安定していると思えます。圃場のローテーションで、水稲の増収とコストダウンが図れるのは園特の魅力です。

森屋 私も収穫が一番楽しみですが、ねぎの場合生育過程も楽しみの一つです。土づくり、育苗、防除、土寄せをしつかりしたときは生育も良くないと感じています。自分がイメージした通りのねぎができればとても嬉しいです。ねぎには「心」があるように感じ、思っていることに答えてくれるような気がします。

阿部 枝豆は夏の風物詩であり、ビールの相棒とよく言われています。夏の限られた期間ではありますが、美味しい！と言っている姿を想像すると生産するのが楽しく感じます。また、関東方面にも「あんちゃん豆」のファンがいると聞いているので、消費者から出来具合の感想を、率直に聞ける機会があればモチベーションにつながると思います。

工藤 トルコギキョウは手をかければかけるほど、花の表情やボリュームに差が出る品目です。昨今は、生産者一人一人の努力が市場からも評価され、単価にも結び付いていると感じています。自分たちの作った花が消費者に喜んでもらえること、頑張った分収入として返ってくるのが花づくりの魅力だと思っています。

組合長 12月8日に花き部会の阿部美和さん(千河原)が、大田花き市場のフラワー・オブ・ザ・イヤータ2023特別賞を受賞されました。全国各地から多数の生産者が出荷する大田花き市場の中で認められた栄えある賞で、農協としても大変嬉しく思います。部会長の工藤さんから、会員の中から受賞したことについて率直なお気持ちを聞かせてください。

工藤 ストックのワインテージブラウンは茶色の珍しい色の品種です。花の見目は綺麗ですが、生産する際には草姿の調整が大変難しい難易度の高い品種となっています。一般的にはハウス一棟に2〜4品種を作付しますが、ワインテージブラウンは他の品目に比べ、開花が揃いづらく、出荷の数量がなかなかまとまらないことが一番のネックとなりました。阿部美和さんはここ6年間毎年作付しており、一昨年からハウス3棟全てワインテージブラウンを作付することで、安定的に出荷できる体制を整えました。ようやく、ワインテージブラウンの認知度も広がり、日々の栽培技術や肥培管理の努力の結果が認められたと感じ

は猛暑の影響で出荷する商品が無いとの話を聞き、そのような状況を踏まえると、管内はまだよかつたのかと思います。

組合長 猛暑の影響もあり、単価の面ではよかつたのではないのでしょうか？

森屋 確かに単価には反映されませんでした。出荷できる時には出荷するというのを部会内で共有していきたいと思っています。

組合長 昨年、赤かぶは機械による収穫を初めて試みました。農協としても機械化を考えていますが、その点についてどう思いますか？



佐藤 啓一さん(館)

佐藤 今の収穫作業は人海戦術で、将来的には労力不足が予想されます。赤かぶの収穫については、機械化は進めなければなりません。ただし、今の肥培管理では生育が揃わず、機械化が難しいと感じております。

組合長 現在の発芽率、生育のパラメータ等はどうな状況でしょうか？

佐藤 圃場にもよりますが、播種深度の改善で発芽率は上昇している

と思いますが、生育のバラつきが多く見られます。要因としては、排水不良や密植が考えられ、播種方法の改善を考えているところで。

組合長 赤かぶについては収穫作業が一番の重荷になっていると思います。生産者が減少する状況を踏まえ、機械メーカーと試作を行いたいと思います。播種方法等、収穫機が対応できるような栽培方法も農協としても考えていきたいと思っています。来年度も模索しながら一緒に頑張っていきたいと思います。

組合長 私も軟白ねぎ栽培の経験はありますが、昨年の猛暑で、かなり生育が遅かったという話を聞きました。環境の苦勞等はありませんか？

北川 ハウスの天窓やサイドを開けて対応しましたが、昨年の猛暑には太刀打ちできませんでした。風が吹けばよかったです。期待していた風も吹いてきませんでした。稲刈り期間中は、防除作業がおろそかになってしまい虫が付いてしまいました。

組合長 早朝灌水ではなく夕方灌水を行っている人も多くいました。昨年の夏の暑さを考えると、部会で情報共有しながら灌水作業を中心に、対策を考えていければと思います。

組合長 園特部会から農作物を作るには大変な年だったとの話がありました。生活館の産直コーナーでは、同じく猛暑の影響により品数が不足する事象が発生しました。昨年度より、販売金額や販売数量が減少している

ています。部会としても大変嬉しく思っています。

組合長 まずは根気強く、あきらめないで栽培できたというのが受賞理由の一つだと思います。園特部会や産直の会には、女性の参画を促し、研鑽を積んで活気ある部会を作れる可能性があると改めて感じたところです。

高梨 以前の産直コーナーは、生活館の片隅にあったと記憶しています。その当時は産直の会が無く、どういった品物を出荷してはしいか等、情報の共有ができていまいた。産直に関する組織を作りたいと思ったときに、農協から改装記念に合わせて産直コーナーを拡大するとの話があり、産直の会を立ち上げました。様々な生産者からアドバイスをいただいたながら、コミュニケーションを円滑にすることも農業をする楽しみの一つです。また、お客さんも野菜の出荷を待ち遠しく感じられて嬉しく思っています。

組合長 私たち農家は、収穫が大きな喜びではないでしょうか。収穫に向かつて栽培の工夫等、独自の手立てを考えるのも楽しみの一つであると感じています。生産については、今後も生産指導係を中心に、様々な情報を取り入れながらアドバイスをしていきたいと思えます。新型コロナウイルスも感染法上、5類に引き下げられたこともあり、市場視察も行けるようになりました。今年は、皆様からも部会等で消費地に足を運んでいただき、消費者交流を行っていただきたいと考えています。そして、栽培する上で

日あんちゃ」というブランドがあるので、続けていく努力をしていきたいと思えます。

組合長 やはり人手不足が原因で、規模を縮小せざるを得ない状況だと思えました。例えばですが、改めて共選をできればと感じています。栽培・収穫・バック詰めを分けることで、作業効率が良くなれば面積も自ずと増えるのではないかと思います。共選場所の確保、機械投資もしながら、農作業サポーターの充実を農協として考えていければと思います。



森屋 慶一さん(廿六木)

森屋 私が就農した当時、ねぎの収穫機を購入しました。今では当時の2.5倍まで作付面積を増やすことができました。規模拡大は資本力や安定した収入が無いと難しい気がしますが、掘る・結束する等、作業面で班を分けないと取量は上がらないと感じています。作業が大変な防除は今後、ドローンを使用して省力化できればと思います。また、農作物が適正価格で販売できれば、農業の今後の未来もあると思います。

組合長 森屋さんが仰るとおり、班

の工夫するヒントを見つけていただければと思います。農協としても今後、生産者と消費者の結びつきを強化していくことが大きな仕事になってくるのではないかと思います。

Q：サラリーマンと農業を比べたの違い・思い

工藤 サラリーマン時代は決まった時間で出勤し、決まった給料をいただいていた。農業は出勤も自由、収入も自分の頑張りで次第と感じています。自分の工夫や努力次第で収入を増やせることが、農業の魅力の一つだと思います。当初、サラリーマン時代が良かったと思うときもありましたが、様々なことを経験し、今となっては就農してよかったと感じています。しかし、自然災害等のリスクもあるもので、一年間ずっと気は抜けません。サラリーマンの経験も農業には活かせると思っているので、柔軟な考え方を持った就農者が増えればいいなと期待しています。

阿部 前職との大きな違いは、農業は自分が働く時間や作物の選択から経営まで、全て自分の判断が重要な職業だと感じています。農業の難しさで悩む場面もありますが、失敗しても成功しても、結果がどうであれいい意味でスッキリ感があります。前年の失敗は翌年に活かすという気持ちで今後も持ち続けていきたいと思えます。

森屋 サラリーマンのときは技術職であったため、この経験もネギに活かせる作業をする等、共同で作業をするような仕組みができれば、規模も増えるのではないかと思います。今後はいかに省力化しながら、効率的に単収を上げていけるかを共に考えたいと思っています。

佐藤 赤かぶのデメリットは、連作できないことです。連作できない要因の一つに根こぶ病がありますが、対処する薬剤も10万5千円と高価です。連作障害についても農協から何か支援があれば心強いと感じています。

組合長 連作障害が、農家には大きな問題になっていると思います。赤かぶは、今後圃地化できればと考えています。管内には排水の問題があるところも多く、今後は中間管理機構を通して有利な圃場(排水等)の交換をできればと思っています。防除についても生産者が栽培しやすい環境を整えるのが農協の仕事だと感じています。

北川 軟白ねぎも5年以上栽培すると連作障害が発生します。様々な情報を聞き、有効な情報や管理情報等を部会で共有したいと思っています。また、収穫は1人だと大変ですし、労働力の面で不安があります。

組合長 軟白ネギも軟腐病が付くと何年もその病になると言われています。定植前に薬剤を投入するの予防策の一つですし、しっかりと還元消毒することだと思っています。発生してからの対応ではなく、発生させない圃場作りを取り組むのもいいかと思っています。平

るのではないかと思っていました。しかし、農業は天候に左右される部分が大きく、難しさもあり、終わりが無いと感じています。工夫を凝らせば、ねぎの生育も良くなり、自分の努力に比例してねぎもきちんと答えてくれると感じています。また、ねぎ部会は若い農業者もいるので、お互い情報共有しながら農業をするのが楽しいです。

佐藤 私の前職は商品開発の研究でした。サラリーマンではありましたが、比較的自由に仕事をしていました。納期等、過密スケジュールもあって大変でしたが、商品開発も農業もどちらも楽しく感じています。サラリーマンの場合はやりたいうことを、上司や同僚に相談できる環境がありました。農業は相談できる環境が少ないように思っています。



北川 庄一さん(榎木)

北川 前職は製造業の会社に勤めていました。自分の作った製品が店頭で並んでいることに喜びを感じながら仕事をしていました。専業で農家を始め、春から秋は水稲、稲刈りが終われば翌年に向けての作業、冬は軟白ネギと農業は一年中作業があるので、

岡の共選施設の利用も労働力を補えるので、利用してください。

高梨 産直の会員数は多くても、なかなか数量がまとまらない状況です。これからは、少量でも出してくれる人を募っていきけるよう努力をしていきたいと思えます。また、種苗メーカーとの意見交換会等も予定しているので、会員の皆様からも作る楽しみ、出荷する楽しみを感じてほしいです。冬場のハウスを活用して、どういった野菜ができるかの研修や空きハウスの情報提供をこれから行っていきたいと考えています。

組合長 高梨さんが仰るとおり、会員数は多いのですが、品目が増えないのが大きな課題だと思います。営農座談会では、新たな取り組み作物として、パブリカを取り上げました。栽培技術は庄内でも確立されていて、ハウス全面ではなく、1畝・2畝の作付をできればと思っています。しかし、パブリカは苗が高いため、農協でも助成しながら普及に努めます。産直の品目拡大という面では、他の産直の見学や試食する機会を設けてみるのも、会員にとって新しい発見になるのではないかと思います。

皆様から部会の方向性や決意等をお聞きし、改めて農協としても具体的な方策を考えていければと思います。昨年の猛暑のように環境は目まぐるしく変わりますが、部会全体で研鑽を積んで、高品質な農産物の生産に励んでいただければと思います。本日はありがとうございました。

忙しさはありますがやりがいを感じています。

高梨 20年程、縫製会社の社員として働いてきました。次男の就職を機に、主人と一緒に農業をやるうと思いに、主人と一緒に農業をやるうと思いに、退社を決断しました。初めての農業は畑作で、稲作は手伝いの様な流れになっています。私にとって、農産物が日々成長する楽しみは、ミシンの前に20年間座っていた仕事より新鮮味が多しと感じています。

組合長 サラリーマンと農業を比較させてもらいましたが、大きな違いは「時間」だと思います。サラリーマンは時間に応じた労働ですが、農業は自分に責任を持って、自分で計画を立てながら従事していると思います。時間の配分次第で家族との時間を作ったり、旅行に行ったりできるのも農業の魅力の一つです。私も専業で農家をやってきた頃は、「子育て」の面で専業農家であったからこそ、向きあえた時間が多かったのかなと思います。しかし、生計を立てる面ではきつちりとした収入を得るといのが絶対条件になってきますし、責任のある営農経営が必須です。

Q：園特部会・産直の今後の方向性

工藤 近年、生産者も高齢化し、年々生産量が減少しています。現状の生産量を増やしていくために、作業の省力化や省力品目の導入が必要で、花き部会員は灌水チューブを使用し、灌水の省力化をしています。

最近ハウス喚気の自動化も検討しています。しかし、収穫作業は人手がかかっている状況です。私は繁忙期に知り合いに頼んだり、農協の農作業サポーターを利用してあります。人手の必要な時期は、部会員同士協力し合えるような体制もできたらいいと思います。生産量を減らさず、長く花づくりを続けられるような環境整備を農協と一緒に目指していきたいです。



佐藤 一彦組合長

組合長 私も管内の花き生産については、他の産地にも負けない技術力を持つていると自負しております。ただ、その高度な技術力を次世代に継承できていないのが課題だと感じています。花農家も高齢化が進んでいるので、未来ある若い農業者に、今の技術力を活かした栽培を続けてもらいたいと思っています。

阿部 枝豆部会は出荷量も作付面積も減少傾向で、生産者数も10年前と比べると半分以下の現状です。労働力の面では、収穫の人手不足、機械等も高額で将来的には不安な面があります。確かに、機械化できれば自ずと生産者数や面積が増えると思えます。先人達が作り上げてきた「余

フラワー・オブ・ザ・イヤーOTA2023 特別賞
ストック「ヴィンテージブラウン」
阿部 美和さん (千河原)
写真提供：株式会社 大田花き花の生活研究所

新春座談会 出席者プロフィール

氏名	マイブーム(趣味)	元気のもと	今年挑戦してみたいこと	役職
高梨 美代子さん(廿六木) 文中：高梨	洋服やバックを作る	笑顔で動き、美味しいものを食べる	新しい野菜を植えて収穫してみたい	産直の会 会長
工藤 豊章さん(長畑) 文中：工藤	ギター	美味しいものを食べる	ハウス喚気の遠隔操作システムを自作したい	花き部会 会長
阿部 良明さん(榎島) 文中：阿部	球場での野球観戦	食べる	ゆっくりと旅行	枝豆部会 会長
森屋 慶一さん(廿六木) 文中：森屋	ラーメン 食べ歩き	孫の成長	ドローン	ねぎ部会 副会長
佐藤 啓一さん(館) 文中：佐藤	サッカー観戦	妻と子供とのふれあい	赤かぶの播種方法の新たな取り組み	加工野菜部会 会長
北川 庄一さん(榎木) 文中：北川	Radikoで全国のFMラジオ番組を聞く	ご飯を食べる	パソコン使用の上達	軟白ねぎ部会 会長

庄内地域で初の快挙!!

阿部美和さん(千河原)が フラワー・オブ・ザ・イヤーOTA2023特別賞を受賞!

(株)大田花きが主催するフラワー・オブ・ザ・イヤーOTA2023で、阿部美和さん(千河原)のストック「ヴィンテージブラウン」が特別賞を受賞しました。

同賞は、大田花きで取り扱う約20万点の商品の中から、仲卸や生花店等、大手バイヤーの投票で選出されます。品質・色や形等を総合的に評価し、トレンドを反映する動きもあります。

受賞されたストック「ヴィンテージブラウン」は、ワインやカカオを想起させる色で、ファッショントレンドとも連動しています。しかし、生産する際は草姿の調整が難しく、花穂が伸びやすい面があり、難易度の高い品種となっています。



▲「ヴィンテージブラウン」を調整する阿部美和さん

12月8日、東京都の大田花き市場で表彰式が行われ、余目町農協花き部会長の工藤豊章さん(長畑)と阿部美和さんが参加されました。
受賞した阿部美和さんは、「ヴィンテージブラウン」を作付して、6年目になります。日々工夫しながら作業したことが評価されたと思います。工藤豊章会長を中心に、排水樹や液肥混入機の導入等、部会全体で様々なことを取り入れたことも受賞した理由の一つだと思います。」と話されました。



▲大田花き市場で行われた表彰式の様子

参加型の研修で楽しむ 余目町農協 年金友の会会員研修



▲会員研修の様子

んなに多い年はありませんでした。来年は品質がよく、収量が取れることを望みたいと思います。」と挨拶がありました。
研修では、津軽すこっぶ三味線の師範、館岡島海山さんをお招きし、すこっぶ三味線の演奏を聞きました。会員が演奏に参加する場面もあり、久しぶりの会員研修は大盛り上がりとなりました。

12月7日、当農協生活センターホールで余目町農協年金友の会会員研修が行われました。

日下部市雄会長からは、「令和元年11月以来、約4年ぶりの開催となります。猛暑の影響で、2等米がこ



▲挨拶する日下部市雄会長



▲会員の方も演奏に参加しました!

効果的な体操を実践! 余目町農協 健康管理友の会研修会・忘年会

12月15日、当農協生活センターホールで余目町農協健康管理友の会研修会・忘年会が行われました。
初めに、佐藤一彦組合長が「今年一年を振り返って」の題目で、農協事業の概要や今年嬉しかったこと3選等の講演を行いました。
次に、ウェルネスマネージャーの飯野隆先生をお招きし、日常生活でのひざ痛予防の体操を行いました。冬場は膝を冷やさないと足裏の体操は効果的であるとの情報もいただき、参加した会員からは「明日からやってみたい。」との声も聞かれました。



▲開会前には本間病院友の会様から健康チェックを行っていただきました



▲佐藤一彦組合長の講演の様子

コロナウイルスの分類引き下げによる 需要の回復 選ばれる産地に向けて、 各集落で営農座談会を開催

11月27日、29日、各集落公民館等で営農座談会が開催されました。120名以上の組合員が参加し、令和5年産米の総括と令和6年産米の考え方について多くの意見を頂きました。
令和5年産米は、お盆過ぎからの高温の影響を受け、「はえぬき」では腹白・背白、「つや姫」では心白が多く発生しました。
営農座談会では、「雪若丸の作付が追加されるとあるが、どのくらいの面積が配分になるのか。」「高温の影響で等級が下がった分、他県では補填しているが山形県は補填するのか。農協でも町や県に要請してほしい。」など様々な意見を頂きました。



▲令和6年産米の考え方等、様々な意見を頂きました



▲榎木集落の営農座談会の様子

安心・安全の故郷の味で年越しを

生協共立社・庄内町社会福祉協議会に
福祉もちを寄贈



▲庄内町社会福祉協議会奥山会長(左)と富樫透庄内町長(中央)と佐藤一彦組合長(右) ▲佐藤一彦組合長(左)と生協共立社安達理事長(右)

12月8日に鶴岡市の生協共立社へ、13日に庄内町社会福祉協議会へ福祉もちを寄贈しました。生協共立社の安達忠士理事長は「多くの福祉施設で、正月のお餅を楽しみにしている。貧困の格差が広がっている中、このような福祉もちは大変ありがたい。」と述べ、福祉もちを受け取りました。

この福祉もちにはJAあまるめと生協共立社が昭和44年に鶴岡市内の福祉施設へ贈ったことから始まり、昭和64年からは山形市内の福祉施設にも贈るようになりました。今年度は生協共立社を通じて県内の福祉施設などに220キ、庄内町社会福祉協議会へ82.5キを寄贈しました。

畜産物の販売価格上昇に期待を込め

組合長畜舎巡回



△お歳暮を渡す佐藤一彦組合長(左)と畜産振興会会長高橋源樹さん(右)(中塚野)

12月19日、佐藤一彦組合長が年末の畜舎巡回を行いました。年末年始も家畜の飼養にあたる畜産農家にお歳暮を手渡しました。

輸入飼料の価格が高止まりの中、子牛の販売価格は低迷しています。様々な物価高で、生乳の単価も上がり、消費が落ち込むことも懸念されています。しかしながら、新型コロナウイルスの分類引き下げによる、需要の回復も予測されることから、令和6年の販売価格には期待が持たれているのではないかとの見解もあるようです。

少しでも畜産農家の助けになるよう、畜産物の消費拡大に取り組んでいきましょう！

営農座談会の意見を活かし、来年度の米づくりに向かう

農協役員、営農・防除委員、
JAあまるめブランド米振興会委員 合同協議会



△合同協議会の様子

12月18日、当農協生活センターホールで農協役員、営農・防除委員、JAあまるめブランド米振興会委員合同協議会が行われました。

同協議会では、営農座談会で出された意見を元に話し合われ、中でも高温耐性のある「雪若丸」の作付割合に多くの意見が寄せられました。また、JAあまるめ人・農地プランの現状について、今年度は千河原集落を中心に大規模な面的集積が実現できたとの報告もあり、今後作業効率や農業経費を抑制するためにも、集落を超えた集積が課題であると示されました。

米どころ庄内の魅力を

庄内町立余目第三小学校に出前授業



△営農販売部指導係が先生となり授業をしました

12月4日、当農協職員が庄内町立余目第三小学校で「庄内の米づくり」について出前授業を行いました。

児童約25名に庄内のお米の魅力や第三小学校地区が、「つや姫」「はえぬき」のルーツとなった「森多早生」の発祥の地であることを伝えました。また、おにぎりの米粒は何粒でしょう？などのクイズコーナーを設け、児童らは楽しくお米について学んでいる様子でした。

授業終了後、食農教育・国産の産品の一環として特別栽培米「でわのもち」を使用した丸餅・切餅も進呈しました。

今後の生活館の展望を語る

JAあまるめ女性部 組合長との意見交換会



△営農販売部長より惣菜加工室の新商品の説明が行われました

12月13日、当農協生活センターホールでJAあまるめ女性部と組合長との意見交換会が行われました。

11月に行われた生活館のアンケート調査を元に、各部門や惣菜加工室の商品について多数の意見が出されました。「産直の商品を使った惣菜を出してほしい。」「惣菜の少量パックがほしい。」「等、様々な意見を踏まえながら、事業展開を行っていきます。

意見交換会終了後は、惣菜加工室の新商品の試食会も行われ、部員の皆さんは興味を示している様子でした。



春まきキャベツ 育苗管理が肝心

キャベツなどのアブラナ科野菜は夏まき栽培が一般的です。しかし、低温期に種まきをする春まき栽培では、早期に花茎が伸びて収穫できないことがあります。適切な品種を選び、苗作りでの温度管理を上手にすれば、初夏に収穫する作型を成功させることができます。

【品種】とう立ちしにくい晩抽性と収穫期の高温を避けられる早生性を兼ね備えた品種を選びましょう。

柔らかくジューシーな春系の「春波」(タキイ種苗)、「中早生二号」(サカタのタネ)などがおすすめです。

【苗作り】発芽温度は、おおむね5~35度で、適温は20~25度です。その後の温度は、日中15~20度、夜間5~10度を確保します。そのため、トンネル内に温床マットなどで温床を作り、最低10度を目安に加温しますが、日中は25度以上に上がらないように換気をします(図1)。7.5~9cmポリポットに3、4粒まきし、本葉2枚で1本とし、本葉5、6枚の大苗に仕上げます(図2)。

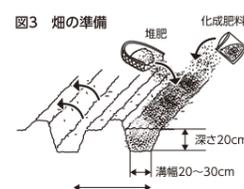
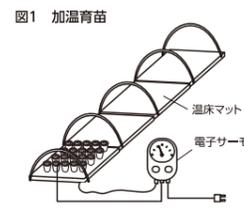
【畑の準備】畑1平方m当たり苦土石灰100g程度をまいて、よく土を耕します。畝幅70~80cm、深さ20cmの溝を掘り、この溝1m当たり堆肥1kgと化成肥料(NPK各成分10%)100gを施し、土とよく混ぜて畝を立てます(図3)。

【植え付け】時期はソメイヨシノが開花する頃(気温10度以上)に、株間40cmに植え付けます(図4)。

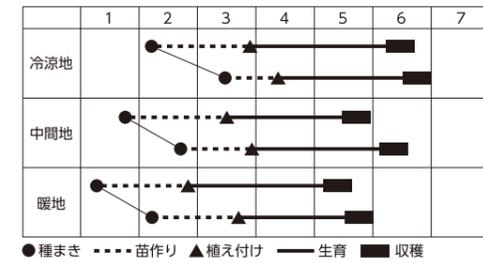
【追肥】結球期まで肥効が残らないように、定植後2週間程度で株の周りに化成肥料を1株当たり10gくらいまいて、株元に土寄せします。

【病害虫の防除】気温が上がるとアオムシ、コナガの発生が多くなるので、BT剤などで防除します。

【収穫】球が固く締まる前に早めに収穫します(図5)。



栽培カレンダー (春まきキャベツ)



※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。 園芸研究家●成松次郎

理事会だより

◎令和6年1月より施行される「電子計算機を使用し作成する国税関係帳簿書類の保存方法の特例に関する法律」第7条に定められた電子取引の取引情報に係る電磁的記録の保存義務を履行するため、当組合でも「電子取引データの修正及び削除防止に関する事務処理規程」を制定しました。

【報告事項】

- (1) 組合員の加入脱退について
- (2) 各種委員会の報告事項について
- (3) 介護予防事業報告書について
- (4) 固定資産の取得について
- (5) 令和6年 新年互礼会について
- (6) 内部監査報告書
- (7) 令和5年度 年末賞与について
- (8) 資産査定結果(仮基準日)について
- (9) 年末年始の業務対応について
- (10) 出張報告について
- (11) 営農座談会の意見・要望について
- (12) 農業倉庫、穀類共同乾燥調製貯蔵施設、青果物集出荷施設における自主的衛生管理マニュアルの設定について

●11月末の実績●

	実績	計画比	前年比	
正 組 員	937 名		99%	
販売取扱品高	農産物	597,450千円	94.3%	88%
	畜産物	251,663千円	94.3%	102%
	計	849,113千円	94.3%	92%
購買取扱品高	農産	235,118千円	108.8%	97%
	畜産	45,635千円	105.4%	96%
	店舗	511,131千円	104.0%	104%
	農機自然	332,148千円	111.6%	110%
	計	1,124,032千円	107.2%	104%
加工事業	245,218千円	102.5%	108%	
貯金高	11,856,829千円	101.3%	101%	
貸出金	2,737,924千円	101.4%	103%	
長期共済(保障)	2,093,890千円	95.2%	94%	

新たな日本酒文化の発信

12/27

やまと桜 新酒試飲会2024



元気で在宅生活を長く続けるために!

12/1

しゃんしゃん健康講話



やまがた農業支援センターからお知らせです

令和7年から農地中間管理事業の利用には『手数料』のご負担をお願いします

◎農地中間管理事業の手数料について

農地中間管理事業の運営には、やまがた農業支援センターの自主財源を一部充当している経費があり、この負担が年々増加しています。このため、将来に向けて持続的、安定的にこの事業をご利用いただけるよう、利用者の皆様の一部ご負担をお願いすることといたしました。なにとぞ皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

◎手数料の概要

- 対象は令和6年10月以降に公告になる満期再契約及び、更新・新規契約から。(直ちに全契約が対象になる訳ではありません)
- 実際に納付いただくのは令和7年の賃料の支払い時点から。
- これ以降毎年、農地の出し手、受け手のそれぞれから納付。
- 手数料の金額は毎年の賃料に0.75%を掛けた額。(賃料1万円の場合の手数料は75円)

◎手数料納付のイメージ

(※10aあたり賃料が年間10,000円の場合の手数料は75円)



詳しくは
やまがた農業支援センター
(023-631-0697)、
又はセンターのホームページを
ご覧ください

組合員の皆様へ

組合員の皆様の中で、死亡などによる組合員資格に変更があった場合は、当JAの定款に基づく資格変更の手続きが必要となります。変更がある場合は、大変恐れ入りますが、企画管理部(☎45-1500)までお申し出ください。

訂正とお詫び

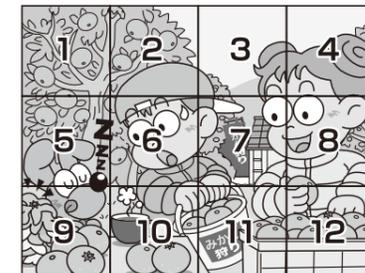
12月号7ページ「理事会だより」に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。
10月末の実績 購買品取扱高 合計 計画比 訂正後 (誤)86.8%→(正)103.3%

まちがいがし

12月号当選者・正解

- 村上千恵子さん(猿田) 佐藤久さん(興野) 佐藤愛莉さん(廿六木) 高梨元子さん(廿六木) 遠田春子さん(提興屋) 日下部みきさん(横島) 渡会一弘さん(千河原) 北川富美雄さん(榎木) 石川礼子さん(中堀野) 樋渡葵衣さん(福原)

抽選の結果10名の方が当選されました。おめでとうございます。たくさんのお応募ありがとうございました。



答え

- 1... ミカンの数が違う
- 7... 屋根のデザインが違う
- 9... ミカンの皮がむけていない
- 10... カップの形が違う
- 12... ミカンに葉が付いていない

●クイズに答えて賞品をゲットしよう!! たくさんのお応募おまちしております。(応募箱はAコープあまるめ入口脇に設置されてます)

身近な話題や「ほのか」の感想をお寄せいただきました。



◎今年の春から小学1年生になります。勉強するのが今から楽しみです。テストで100点を取るのが目標です。(6歳 女性)

春からの新学期、今から楽しみです。100点をたくさん取って、お父さん・お母さんを喜ばせたいですね。

◎年末恒例の年賀状ですが、年々「来年からは遠慮させていただきます。」の文面が多くなりました。何か寂しさを感じています。(72歳 女性)

現代の新年の挨拶はインターネット等の普及により、簡素化されてきました。年賀状という日本の大事な慣習は大切にしていきたいですね。

◎新年を迎えました!! 孫たちが帰ってきて楽しかったです。(80歳 女性)

昨年からは新型コロナウイルスも5類に引き下げられ、帰省や旅行などに行きやすい年になりました。久々のお孫さんの帰省も楽しかったようで何よりです。



カキの酒煎り

●材料(2人分)

- カキむき身200g (生食用)
- 日本酒200ml
- 塩小さじ1/2
- しょうゆ小さじ1/2
- ショウガスライス(皮付き) ...2枚
- 小口ネギ適宜
- 七味唐辛子適宜



●作り方

- (1) カキはよく水洗いし汚れを落とし、水気を切っておく。
- (2) 小鍋に日本酒を沸かしアルコールを飛ばし、ショウガ、塩、しょうゆ、カキを入れ、強火で2分ほど煎(い)り煮する。
- (3) 器にカキを盛り付け小口ネギのをせ、七味唐辛子を振り出来上がり。



シェフ永井の おすすめ

